

平成 22 年 度
「学生による授業評価」
報 告 書

平成 24 年 3 月

宮崎大学農学部

【まえがき】

ここに平成22年度の「学生による授業評価」報告書をお届けします。

本報告書の目的は授業評価を基にした教員の授業改善活動の成果を客観的に点検することを目的としています。昨年平成21年度まで継続されてきました報告書を見直してまいりますと、着実に成果を上げてきたことが確認されます。今や、宮崎大学農学部における学生による授業評価アンケートの実施と、それを基にした教員個人、各学科・専攻単位での授業改善活動は定着しており、その成果を測る一つの指標として、本報告書が果たす役割は大きいでしょう。

本年度より、学部教育については、植物生産環境科学科、森林緑地環境科学科、応用生物科学科、海洋生物環境学科、畜産草地科学科、獣医学科の6つの新学科体制に移行しました。それに伴い、授業評価の取りまとめも新学科単位となりました。したがって、旧学科体制との比較は本報告に含まれておりませんが、新学科における授業評価結果を継続して蓄積し、分析することが、新学科カリキュラムの点検、教育効果の向上に重要になると考えております。

一方で、教員個々の授業改善やスキルの向上と共に、組織としての教育力向上も大きな課題です。カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに即した教育を、教員間の密接な連携を通じて実践していくことが求められています。そのためにも、慣行化した授業改善活動にとどまらず、活動事例の共有化や、問題点の発掘と改善を農学部全体で取り組む必要があるでしょう。

農学部長
村上 昇

目 次

	ページ
1. はじめに-----	1
2. 授業評価実施の方法-----	2
3. 評価結果の集計および表示-----	3
4. 学部共通科目の授業評価結果-----	5
A. 学部共通科目-----	5
5. 学科基盤専門科目および専門科目の授業評価結果-----	7
B-1. 植物生産環境科学科-----	7
B-2. 森林緑地環境科学科-----	10
B-3. 応用生物科学科-----	13
B-4. 海洋生物環境学科-----	15
B-5. 畜産草地科学科-----	18
B-6. 獣医学科-----	20
6. 授業評価の総括-----	22
資料（調査票）-----	23

1. はじめに

宮崎大学農学部および宮崎大学大学院農学研究科では、前学期ならびに後学期に「学生による授業評価」を実施している。そして、各講義や実験の担当者は「学生による授業評価」の結果を受けて、「授業点検シート」を作成し、さらに学科や専攻などの単位で授業点検・授業改善活動を行っている。このような組織的な取り組みにより、全教員が授業改善に向けて不断の努力を続けている。

このような状況の中で、宮崎大学農学部は平成 22 年度に改組し、6 つの新学科が誕生した。平成 22 年度から新しいカリキュラムの基で、新しい学部教育がスタートしている。

新カリキュラムでは、1 年次において基礎植物学や基礎動物学などの学部共通科目を履修し、農学教育を受ける上で必要となる最も基礎的な教養を身につける。さらに、学部共通科目に加えて、1 年次あるいは 2 年次に各学科の専門基盤科目や専門科目を履修していくようにカリキュラムが組まれている。

現在、この新カリキュラムの教育について点検することが農学部 FD における重要課題となっている。そこで、平成 22 年度「学生による授業評価」報告書では、新カリキュラムの授業について「学生による授業評価」結果を解析し、報告書として取りまとめた。

2. 授業評価実施の方法

授業評価のアンケートは、授業担当教員が質問用紙とマークシート方式の回答用紙を任意の時期（通常は講義の終了時か試験時、実験・実習にあつては終了時）に配布し、実施した。質問用紙は講義用（資料1）と実験・実習用（資料2）の二種類を用意し、いずれの質問用紙も15項目の調査事項から成り、必要に応じて教員が独自に質問事項を追加できるような形式となっている。また、回答用紙には、改善を求めたいこと、その他意見や感想など自由に述べることのできる記述欄が設けられている。

アンケートの集計は、教員が授業評価の質問用紙（記述欄を含む）と回答用紙を回収した後、学科担当の非常勤職員の協力を得て、マークシートに●印で回答された用紙についてコンピュータ読取装置により効率的に行った。集計結果は、授業担当教員へフィードバックされるとともに、当該学科のFD委員にも報告される。

3. 評価結果の集計および表示

平成 22 年度授業評価の結果を取りまとめるに当たり、次の方針に基づき集計・表示した。

(1) 学部共通科目（講義）

- ① 本年度は授業科目別に取りまとめる方針とした。
- ② 質問 4 の私語への注意については、「5:していた。（「そのような私語などはなかった。」を含む）」の百分率で示した。
- ③ 質問 14 と 15 の予習復習については、「5:した」と「4:少しした」の差はあっても同質の回答と考慮して一括して扱い、合計をそれぞれ「予習をした」、「復習した」の百分率で示した。

(2) 学科専門基盤科目および専門科目（講義）

- ① 本年度は学科ごとの状況に合わせて、専門基盤科目、専門科目の別、必修、選択の別等により分類し、取りまとめる方針とした。
- ② 質問 4 の私語への注意については、「5:していた。（「そのような私語などはなかった。」を含む）」の百分率で示した。
- ③ 質問 14 と 15 の予習復習については、「5:した」と「4:少しした」の差はあっても同質の回答と考慮して一括して扱い、合計をそれぞれ「予習をした」、「復習した」の百分率で示した。

(3) 学科専門基盤科目および専門科目（実験・実習）

- ① 本年度は、学科ごとの状況に合わせて、実験、実習の別、専門基盤科目、専門科目の別、必修、選択の別等により分類して取りまとめる方針とした。
- ② 質問項目に対して、「1:非常に不満」と「2:やや不満」の差はあっても同質の回答と考えて一括して扱い、合計して不満回答の百分率として示した。

4. 学部共通科目の授業評価結果

A. 学部共通科目（講義）

学部共通科目（講義）の授業評価について、授業科目別に取りまとめ、集計結果を表 A に示した。

表 A を見ると、授業方法に関する項目や講義の内容に関する項目については、多くの科目において 60%以上から良好な評価を得ている項目が多く、これらについては大きな問題はないものと考えられる。しかしながら一部で良好な評価が 60%を下回っている項目があり、改善が必要であるケースと考えられる。また、講義の内容に関する項目の評価に関しては、数物系など科目の性質による影響も考えられ、講義の難易度等に関しては慎重な検討が必要であると考えられた。

学生自身の学習態度に関する項目について、復習に関しては総じて高い値となっており、良好な結果であると判断できる。一方、予習に関しては 60%を下回る科目も複数あり、予習をしやすいような方策の検討が必要であると考えられる。自主的に調べたことがあるかという項目は、総じて低い値に留まっている。各科目において、参考図書为例示するなど、学生の自主学習意欲を高める工夫が必要であろう。

学部共通科目にはクラス数や受講生数の問題を含め、改善のために検討を要する事項が存在すると考えられる。

表A 学部共通科目の集計結果(講義)		授業科目A (2クラス)	授業科目B (1クラス)	授業科目C (2クラス)	授業科目D (1クラス)	授業科目E (1クラス)	授業科目F (1クラス)	授業科目G (3クラス)	授業科目H (1クラス)	授業科目I (1クラス)	授業科目J (1クラス)	(%)
質問番号	質問内容											
	選択肢											
	「この授業方法に関する項目」											
質問1	講義は聞き取りやすかった	71	71	40	59	73	70	85	70	91	91	64
質問2	講義のスピードは適切だった	58	65	44	46	60	55	65	76	82	82	74
質問3	視覚機器は適切であった	63	57	46	56	63	64	80	62	75	75	72
質問4	私語などを注意していた	76	73	63	70	78	78	77	76	81	81	75
	平均(1-4)	67	67	48	58	69	67	77	71	82	82	71
	「講義の内容に関する項目」											
質問5	シラバスはわかりやすかった	61	55	46	61	63	58	60	56	74	74	52
質問6	講義の目標は理解できた	68	63	50	60	62	55	63	67	86	86	61
質問7	講義に興味を持てた	72	67	45	50	71	52	53	75	88	88	59
質問8	ねらいは明確にされていた	70	67	57	63	70	59	74	68	81	81	70
質問9	授業の内容は準備されていた	87	86	71	85	87	81	89	92	93	93	84
質問10	説明は理解しやすかった	63	60	31	49	50	42	52	66	81	81	54
質問11	難易度は適切であった	50	56	29	42	39	36	33	57	72	72	39
質問12	内容の量は適切であった	44	56	41	52	53	38	58	55	76	76	66
	平均(5-12)	64	64	46	58	62	53	60	67	81	81	61
	「学生自身の学習態度に関する項目」											
質問13	自主的に調べたことがある	34	29	26	21	36	28	30	29	52	52	25
質問14	予習した	62	49	62	56	54	63	66	44	45	45	45
質問15	復習した	78	71	79	71	73	71	82	67	70	70	74
	平均(13-15)	58	50	56	49	54	54	59	47	56	56	48
	平均(1-15)	64	62	49	56	62	57	64	64	76	76	61

5. 学科基盤専門科目および専門科目の授業評価結果

B-1. 植物生産環境科学科

(1) 講義

講義の授業評価の集計結果を表 B-1-1 に示した。

表B-3-1 植物生産環境科学科の講義科目集計結果 (%)

科目区分			専門基盤科目			
			必修科目	必修科目	必修科目	選択科目
講義科目数			A	B	2科目	2科目
質問番号	質問内容	選択肢				
「この授業方法に関する項目」						
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	45	100	73	91
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	73	100	87	77
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)	46	92	69	93
質問4	私語などを注意していた	5)	83	80	82	89
平均(1-4)			62	93	77	87
「講義の内容に関する項目」						
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	54	80	67	78
質問6	講義の目標は理解できた	5)	53	92	73	83
質問7	講義に興味を持てた	5)	65	96	81	76
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	47	86	67	84
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	83	94	89	94
質問10	説明は理解しやすかった	5)	47	92	70	80
質問11	難易度は適切であった	5)	48	88	68	68
質問12	内容の量は適切であった	5)	66	100	83	75
平均(5-12)			58	91	74	80
「学生自身の学習態度に関する項目」						
質問13	自主的に調べたことがある	5)	30	57	44	32
質問14	予習した	5)と4)	51	100	76	39
質問15	復習した	5)と4)	97	100	99	46
平均(13-15)			59	86	73	39
平均(1-15)			59	90	75	74

「授業方法に関する項目」

質問 1～15 の必修科目および選択科目それぞれ 2 科目の平均はすべて 70% であることから良好な評価を得ており、平均的には大きな問題はないと考えられる。ただし、必修科目 A は全体的に評価が低い。これは担当教員の体調不良による対応の不備や学科教員のサポートが不足していたためと考えられ、今後教

員間の連携を強める努力が必要である。

質問 1～4 の「授業の方法に関する項目」は、必修科目 A を除く、必修科目 B と選択科目 2 科目平均は 80%以上であるから良好な評価を得ており、平均的には大きな問題はないと考えられるが、視聴覚機器の適切な使用や学生の私語を注意することに関して、さらなる改善努力が必要と考えられる。

質問 5～12 の「講義の内容に関する項目」は、必修科目 A を除く、必修科目 B と選択科目 2 科目の平均はそれぞれ 80%以上であることから良好な評価を得ている。必修科目 B では、質問 5 のシラバスに関する評価が 80%と平均 91%よりも低いため、シラバスの改善により、評価をさらに高めることが出来ると考えられる。選択科目 2 科目は平均が 80%であり、課題としてはシラバス 78%、興味 76%および難易度 68%の改善が必要と考えられる。この選択科目 2 科目は工学系の科目であるため、高等学校における学習状況により難易度の感じ方に違いがあることが考えられる。今後は、高等学校で生物を履修していた学生にとっても理解しやすい講義となるように工夫することが必要であると考えられた。

質問 13～15 の「学生自身の学習態度に関する項目」は、「自主的に調べたことがある」と答えた学生は必修科目 B で 31%、選択科目 2 科目平均で 32%と低く、また「予習した」「復習した」と答えた学生は選択科目 2 科目平均でそれぞれ 39%、46%と低かった。学生は受け身な学習態度となっており、学生が興味を持ち、主体的に学習する態度を身につけさせる工夫も必要であると考えられる。

(2) 実験・実習

実験・実習の授業評価の集計結果を表 B-1-2 に示した。

表B-3-2 植物生産環境科学科の実験・実習科目集計結果 (%)

科目区分		専門基盤科目 (必修科目)	専門科目 (選択科目)
	実験・実習科目数	2科目	0科目
	各科目の平均担当教員数	人	人
質問番号	質問内容	選択肢	
質問1	シラバス	1)と2)	1
質問2	時間設定	1)と2)	2
質問3	配布資料	1)と2)	0
質問4	実習に関する説明	1)と2)	0
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と2)	0
質問6	実習前・実習中の説明	1)と2)	0
質問7	教員としての熱意	1)と2)	1
質問8	学生の質問に対する対応	1)と2)	2
質問9	機械・器具の配分	1)と2)	1
質問10	不適切な学生への指導	1)と2)	0
質問11	レポートの書き方の指導	1)と2)	3
質問12	レポートの考察や学習課題への助言	1)と2)	4
質問13	レポートの評価	1)と2)	5
質問14	実験技術の向上	1)と2)	2
質問15	TAの指導補助	1)と2)	0
平均(1-15)			1

注:1)は非常に不満, 2)はやや不満

全項目において不満と回答した学生数は10%を下回り、学生は概ね満足していることがわかった。不満の回答率が高かったのはレポートに関する項目であった。この原因は、この実験実習2科目の内容が、見学やオムニバス形式であることから、授業形式が統一されておらず、また学生の提出したレポートに対して補足する機会が十分でなかったためと考えられ、レポートの書き方等の指導について改善努力が必要である。

B-2. 森林緑地環境科学科

(1) 講義

講義の授業評価の集計結果を表 B-2-1 に示した。

表B-2-1 森林緑地環境科学科の講義科目集計結果

科目区分			専門基盤科目		専門科目	
			必修科目	選択科目	必修科目	選択科目
講義科目			1科目	0科目	0科目	0科目
質問番号	質問内容	選択肢				
「この授業の方法に関する項目」						
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	94			
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	82			
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)	84			
質問4	私語などを注意していた	5)	86			
平均(1-4)			87			
「講義の内容に関する項目」						
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	59			
質問6	講義の目標は理解できた	5)	82			
質問7	講義に興味を持てた	5)	82			
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	80			
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	96			
質問10	説明は理解しやすかった	5)	83			
質問11	難易度は適切であった	5)	71			
質問12	内容の量は適切であった	5)	73			
平均(5-12)			78			
「学生自身の学習態度に関する項目」						
質問13	自主的に調べたことがある	5)	36			
質問14	予習した	5)と4)	27			
質問15	復習した	5)と4)	43			
平均(13-15)			35			
平均(1-15)			67			

「授業方法に関する項目」

質問1～4の授業の方法に関する項目はすべて80%以上の良好な評価を得ており、平均的には大きな問題はないと考えられる。

「講義の内容に関する項目」

ほとんどの項目で高い評価を得ている。質問5のシラバスに関する質問が59%であるが、本講義はオムニバス形式の概論であるため、シラバスへの内容記載

が十分でなかったことが考えられる。また、1年次の講義であるため、シラバスに記載されている用語の理解が困難であったことが考えられる。今後、より理解しやすいシラバスの記載が求められる。

「学生自身の学習態度に関する項目」

質問13において自主的に調べたことがあると答えた学生は36%となっている。

1年次の基礎的学習科目であることが原因であることも考えられるが、学生の自主学習意欲を高める工夫が望まれる。予習を行っている学生は27%、復習を行っている学生は43%と非常に低い。これは本講義がオムニバス形式であることが特に影響していると考えられる。今後は担当教員間の情報共有により、連続性のある講義を目指すことが望まれる。

(2) 実験・実習

実験・実習の授業評価の集計結果を表B-2-2に示した。

表B-2-2 森林緑地環境科学科の実験・実習科目集計結果

科目区分			専門基盤科目 (必修科目)	専門科目 (選択科目)
	実験・実習科目数		1科目	0科目
	各科目の平均担当教員数			
質問番号	質問内容	選択肢		
質問1	シラバス	1)と2)	4	
質問2	時間設定	1)と2)	13	
質問3	配布資料	1)と2)	4	
質問4	実習に関する説明	1)と2)	6	
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と2)	4	
質問6	実習前・実習中の説明	1)と2)	2	
質問7	教員としての熱意	1)と2)	0	
質問8	学生の質問に対する対応	1)と2)	2	
質問9	機械・器具の配分	1)と2)	4	
質問10	不適切な学生の指導	1)と2)	10	
質問11	レポートの書き方の指導	1)と2)	17	
質問12	レポートの考察や学習課題への助言	1)と2)	10	
質問13	レポートの評価	1)と2)	0	
質問14	実験技術の向上	1)と2)	2	
質問15	TAの指導補助	1)と2)	2	
平均(1-15)			5	

注:1)は非常に不満、2)はやや不満

全体的に不満のある項目は少ないが、質問2の時間設定と質問11のレポートの書き方の指導がそれぞれ、13%と17%の学生が不満を持っている結果となった。本実習はフィールド体験を重視した屋外での学習であり、教育効果を高めるために宿泊も含んでいる。従って天候不順による予定の変更や休日を使用する必要があることが時間設定に不満を持つ結果につながったと考えられた。また、レポートの書き方指導は、本実習が屋外での学習であることから十分に時間を取れなかったことが考えられた。今後は他の講義と連携するなど、レポート執筆の指導を強化する必要がある。

B-3. 応用生物科学科（新学科）

（１）講義

講義の授業評価の集計結果を表 B-3-1 に示した。

表B-3-1 応用生物科学科の講義科目集計結果					(%)
科目区分			専門基盤科目 (必修科目)	専門科目	
講義科目数			3科目	必修科目 0科目	選択科目 0科目
質問番号	質問内容	選択肢			
「この授業方法に関する項目」					
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	76		
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	74		
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)	76		
質問4	私語などを注意していた	5)	84		
平均(1-4)			78		
「講義の内容に関する項目」					
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	68		
質問6	講義の目標は理解できた	5)	73		
質問7	講義に興味を持てた	5)	73		
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	76		
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	89		
質問10	説明は理解しやすかった	5)	68		
質問11	難易度は適切であった	5)	57		
質問12	内容の量は適切であった	5)	68		
平均(5-12)			72		
「学生自身の学習態度に関する項目」					
質問13	自主的に調べたことがある	5)	31		
質問14	予習した	5)と4)	62		
質問15	復習した	5)と4)	78		
平均(13-15)			57		
平均(1-15)			70		

「授業方法に関する項目」

質問 1～4 の授業の方法に関する項目はすべて 70%以上から良好な評価を得ており、平均的には大きな問題はないと考えられる。

「講義の内容に関する項目」

ほとんどの項目で高い評価を得ている。質問 1 1 の難易度に関する質問が 57%であるが、1 年次の専門基盤科目であるため、高等学校における関連科目の学習状況により難易度の感じ方に違いがあることが考えられた。1 年次の専門基盤科目では、高等学校での学習状況が異なる学生に対して、多くの学生にとって理解しやすい講義になるよう工夫することが必要であると考えられた。

「学生自身の学習態度に関する項目」

質問 1 3 において自主的に調べたことがあると答えた学生は 31%となっている。1 年次の基礎的学習科目であることが原因であることも考えられるが、学生の自主学習意欲を高める工夫が望まれる。予習を行っている学生は 62%、復習を行っている学生は 78%であり、良好であると判断される。今後も予習や復習をしやすい環境を整えることが望まれる。

(2) 実験・実習

応用生物科学科では、平成 22 年度の 1 年次で履修する実験・実習科目はなかった。

B-4. 海洋生物環境学科

B-4. 海洋生物環境学科

(1) 講義

講義の授業評価の集計結果を表 B-4-1 に示した。

表B-4-1 海洋生物環境学科の講義科目集計結果			(%)		
科目区分			専門基盤科目 (必修科目)	専門科目	
				必修科目	選択科目
講義科目数			1科目	2科目	0科目
質問番号	質問内容	選択肢			
「この授業方法に関する項目」					
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	81	64	
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	67	66	
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)	67	84	
質問4	私語などを注意していた	5)	85	83	
平均(1-4)			75	74	
「講義の内容に関する項目」					
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	63	79	
質問6	講義の目標は理解できた	5)	67	81	
質問7	講義に興味を持てた	5)	85	86	
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	74	90	
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	81	97	
質問10	説明は理解しやすかった	5)	67	81	
質問11	難易度は適切であった	5)	44	66	
質問12	内容の量は適切であった	5)	63	83	
平均(5-12)			68	83	
「学生自身の学習態度に関する項目」					
質問13	自主的に調べたことがある	5)	52	45	
質問14	予習した	5)と4)	48	62	
質問15	復習した	5)と4)	70	84	
平均(13-15)			57	64	
平均(1-15)			68	77	

「授業方法に関する項目」(質問1～4の項目)

専門基盤科目については、概ね7割以上の学生から良好な評価を得ており、4項目の平均からも大きな問題はないと考えられる。専門必須科目についても、各項目で6割以上の学生から良好な評価を得ており、大きな問題はないと判断する。一方で、講義の聞き取りやすさ・スピードについては、他の項目に比べ、

若干低い評価となっている。1年次に受講するはじめての専門的な科目であること、高等学校における関連分野の履修状況の違いなどが原因であると考えられる。

「講義の内容に関する項目」（質問5～12の項目）

基盤科目、専門科目とも、ほとんどの項目で高い評価を得ている。基盤科目の難易度に関する項目（質問11）が44%と低い評価であった。1年次の専門科目であるため、高等学校における関連科目の履修状況などにより難易度の捉え方に違いが生じたと考えられる。1年次の基盤・専門科目では、高等学校での学習状況を踏まえ、講義内容に関する工夫や配慮も必要であると考えられる。

「学生自身の学習態度に関する項目」（質問13～14の項目）

基盤科目、専門科目とも、復習をしている学生の割合は高く、良好であると判断される。これに対し、自主的な学習や予習を行ったと答えた学生の割合は低い。2年次以降は、さらに専門性の高い講義内容となるため、入学初年度から学生の自主的な学習態度を高める工夫や指導が望まれる。

(2) 実験・実習

実験・実習の授業評価の集計結果を表B-4-2に示した。

科目区分			(%)	
			専門基盤科目 (必修科目)	専門科目 (選択科目)
	実験・実習科目数		2科目	0科目
	各科目の平均担当教員数		11人	人
質問番号	質問内容	選択肢		
質問1	シラバス	1)と2)	0	
質問2	時間設定	1)と2)	0	
質問3	配布資料	1)と2)	4	
質問4	実習に関する説明	1)と2)	0	
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と2)	0	
質問6	実習前・実習中の説明	1)と2)	0	
質問7	教員としての熱意	1)と2)	0	
質問8	学生の質問に対する対応	1)と2)	0	
質問9	機械・器具の配分	1)と2)	0	
質問10	不適切な学生への指導	1)と2)	0	
質問11	レポートの書き方の指導	1)と2)	0	
質問12	レポートの考察や学習課題への助言	1)と2)	0	
質問13	レポートの評価	1)と2)	0	
質問14	実験技術の向上	1)と2)	4	
質問15	TAの指導補助	1)と2)	0	
平均(1-15)			0	

注:1)は非常に不満, 2)はやや不満

専門基盤科目内の実習・実験について、ごく僅かの学生が、配布資料や実験を通じた実験技術の向上について満足していないと評価した。しかしながら、ほぼすべての項目で、非常に不満、やや不満と答えた学生は認められない。全学科教員によるオムニバス形式の実験・実習であるが、1年次の基礎的な実験・実習科目については、大きな問題点はないと言える。

B-5. 畜産草地科学科

(1) 講義

講義の授業評価の集計結果を表 B-5-1 に示した。

表B-5-1 畜産草地科学科の講義科目集計結果 (%)

科目区分			専門基盤科目 (必修科目)	専門科目	
講義科目数			5科目	0科目	0科目
質問番号	質問内容	選択肢			
「この授業方法に関する項目」					
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	84		
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	82		
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)	82		
質問4	私語などを注意していた	5)	84		
平均(1-4)			83	#DIV/0!	#DIV/0!
「講義の内容に関する項目」					
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	55		
質問6	講義の目標は理解できた	5)	78		
質問7	講義に興味を持てた	5)	83		
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	80		
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	93		
質問10	説明は理解しやすかった	5)	80		
質問11	難易度は適切であった	5)	69		
質問12	内容の量は適切であった	5)	73		
平均(5-12)			76	#DIV/0!	#DIV/0!
「学生自身の学習態度に関する項目」					
質問13	自主的に調べたことがある	5)	32		
質問14	予習した	5)と4)	47		
質問15	復習した	5)と4)	78		
平均(13-15)			52	#DIV/0!	#DIV/0!
平均(1-15)			73	0	0

「授業方法に関する項目」

質問1～4の授業の方法に関する項目はすべて80%以上の受講生から良好な評価を得ており、大きな問題はないものと思われる。

「講義の内容に関する項目」

ほとんどの項目で高い評価が得られているが、質問5のシラバスに関する質問が55%と低くなっており、今後、記載事項等の改善が望まれる。

「学生自身の学習態度に関する項目」

質問 13 と 14 とが 32% および 47% であったが、これは、5 科目中、オムニバス
 授業科目が 2 科目含まれており、予習できない状況であったことから、このよ
 うな低い数値になったものと思われる。これに対して、復習の割合は 78% であり、
 良好であると考えられる。

(2) 実験・実習

実験・実習の授業評価の集計結果を表 B-5-2 に示した。

表B-5-2 畜産草地科学科の実験・実習科目集計結果 (%)

科目区分		専門基盤科目 (必修科目)	専門科目 (選択科目)
	実験・実習科目数	2科目	0科目
	各科目の平均担当教員数	14人	人
質問番号	質問内容	選択肢	
質問1	シラバス	1)と2)	3
質問2	時間設定	1)と2)	20
質問3	配布資料	1)と2)	0
質問4	実習に関する説明	1)と2)	1
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と2)	1
質問6	実習前・実習中の説明	1)と2)	1
質問7	教員としての熱意	1)と2)	5
質問8	学生の質問に対する対応	1)と2)	1
質問9	機械・器具の配分	1)と2)	4
質問10	不適切な学生への指導	1)と2)	5
質問11	レポートの書き方の指導	1)と2)	6
質問12	レポートの考察や学習課題への助言	1)と2)	10
質問13	レポートの評価	1)と2)	5
質問14	実験技術の向上	1)と2)	7
質問15	TAの指導補助	1)と2)	2
平均(1-15)			5

注:1)は非常に不満, 2)はやや不満

ほとんどの項目で高い評価を得ている。しかし質問 2 の時間設定については
 20%の受講生が不満を訴えており、今後、この点について改善する必要があるも
 のと思われる。また、質問 12 のレポートの考察や学習課題への助言について 10%
 の受講生が不満と答えており、レポート作成に関するより適切な指導が望まれ
 る。

B-6. 獣医学科

(1) 講義

講義の授業評価の集計結果を表 B-6-1 に示した。

表B-6-1 獣医学科の講義科目集計結果 (%)

科目区分			専門科目	
			必修科目	選択科目
講義科目数			9科目	0科目
質問番号	質問内容	選択肢		
「この授業方法に関する項目」				
質問1	講義は聞き取りやすかった	5)	88	
質問2	講義のスピードは適切だった	5)	84	
質問3	視聴覚機器は適切であった	5)	84	
質問4	私語などを注意していた	5)	91	
平均(1-4)			87	#DIV/0!
「講義の内容に関する項目」				
質問5	シラバスはわかりやすかった	5)	88	
質問6	講義の目標は理解できた	5)	92	
質問7	講義に興味を持てた	5)	92	
質問8	ねらいは明確にされていた	5)	92	
質問9	授業の内容は準備されていた	5)	94	
質問10	説明は理解しやすかった	5)	87	
質問11	難易度は適切であった	5)	81	
質問12	内容の量は適切であった	5)	84	
平均(5-12)			89	#DIV/0!
「学生自身の学習態度に関する項目」				
質問13	自主的に調べたことがある	5)	78	
質問14	予習した	5)と4)	79	
質問15	復習した	5)と4)	86	
平均(13-15)			81	#DIV/0!
平均(1-15)			86	0

「授業方法に関する項目」

質問1～4の授業の方法に関する項目はすべて80%以上の良好な評価を得ており、平均的には大きな問題はないと考えられる。

「講義の内容に関する項目」

質問5～12の講義の内容に関する項目はすべて80%以上の受講生から良好な評価を得ており、大きな問題はないものと思われる。

「学生自身の学習態度に関する項目」

質問 13 と質問 14 がそれぞれ 78% および 79% であったことより、予習をしやすいような方策の検討や学生の自主学習意欲を高める工夫が必要である。一方、復習をしている学生の割合は高く、良好と判断される。

(2) 実験・実習

実験・実習の授業評価の集計結果を表 B-6-2 に示した。

表B-6-2 獣医学科の実験・実習科目集計結果 (%)

科目区分			専門基盤科目 (必修科目)	専門科目 (選択科目)
	実験・実習科目数		8科目	0科目
	各科目の平均担当教員数		2人	人
質問番号	質問内容	選択肢		
質問1	シラバス	1)と2)	0	
質問2	時間設定	1)と2)	1	
質問3	配布資料	1)と2)	1	
質問4	実習に関する説明	1)と2)	0	
質問5	機械・器具の使用法の説明	1)と2)	0	
質問6	実習前・実習中の説明	1)と2)	0	
質問7	教員としての熱意	1)と2)	0	
質問8	学生の質問に対する対応	1)と2)	0	
質問9	機械・器具の配分	1)と2)	2	
質問10	不適切な学生への指導	1)と2)	1	
質問11	レポートの書き方の指導	1)と2)	1	
質問12	レポートの考察や学習課題への助言	1)と2)	1	
質問13	レポートの評価	1)と2)	1	
質問14	実験技術の向上	1)と2)	1	
質問15	TAの指導補助	1)と2)	1	
平均(1-15)			1	

全項目において不満と回答した学生数は2%以下であり、学生は概ね満足していることがわかった。機械・器具について不満を訴える学生が少数認められることより、今後、この点について改善の余地がある。

6. 授業評価の総括

(1) 学部共通科目における授業評価結果

学部共通科目について、多くの科目では、授業方法に関する項目、講義内容に関する項目では、概ね満足できる評価結果を得ている。しかし、一部の科目では授業方法や内容について十分な検討を行う必要があると考えられた。また、予習を促すような工夫や学生の自主学習意欲を高める工夫についての検討が望まれる。

(2) 学科専門基盤科目および専門科目（講義）

「授業方法に関する項目」、「講義の内容に関する項目」に関しては、平均的には概ね良好な評価を得ている。今後さらに、視聴覚機器の適切な使用やシラバスの改善、高等学校での履修歴にかかわらず理解しやすい講義の工夫に努力する必要があると考えられた。

「学生自身の学習態度に関する項目」に関しては、予習を促すような工夫、学生が興味を持ち、主体的に学習する態度を身につけさせる工夫も必要であると考えられた。

(3) 学科専門基盤科目および専門科目（実験・実習）

実験・実習については、学生による満足度が低い回答について集計し、評価を行った。平均的には満足度が低い回答の割合は少なく、概ね満足できる評価であると判断される。今後の課題として、レポートの書き方等の指導について改善努力が必要であると考えられた。

資料1

平成22年度「学生による授業評価」調査票（質問用紙）

科目名： _____、学科名： _____、学年： _____

この調査票は、本学部の授業内容・方法を一層充実・改善するための資料となるものです。記入にあたっては、学生諸君の素直な評価をお願いします。なお、この調査はあなたの成績と一切関係はありません。

下記の項目の質問について、別紙の「学生による授業評価」調査票（回答表）に適切と思われる番号の丸数字を塗りつぶして下さい。複数回答しても結構です。また、それぞれの質問の項目で、指定された箇所以外でも、とくに評価できる点あるいは改善すべき点があれば、「記述欄」に書いて下さい。」

A

「この授業方法に関する項目」

1) 講義は、聞き取りやすかったですか。

5: 聞き取りやすかった、4: 早口で聞き取りにくかった、3: 声が小さく聞き取りにくかった、2: その他の理由で聞き取りにくかった。（1~0はなし）

*2に丸印をつけた人は、どのような点が聞き取りにくかったか、記述欄に記入して下さい。

2) 講義を進めるスピードは適切でしたか。

5: 適切、4: 早過ぎる、3: 遅過ぎる。（2~0はなし）

3) 講義において板書の仕方や配布プリントあるいはOHP（液晶プロジェクター）などの視聴覚機器は適切でしたか。

5: 適切であった、4: 板書が読みづらかった、3: OHPが見にくかった、2: プリントやOHPは使用されなかった。（1~0はなし）

4) 教員は講義の進行を妨げるような行為（私語など）があった場合、注意していましたか。

5: していた。（「そのような私語などはなかった。」を含む）4: していなかった。（3~0はなし）

「講義の内容に関する項目」

5) 配布したシラバスは、講義の内容・進め方についてわかりやすく書いてありましたか。

5: わかりやすかった、4: わかりにくかった、3: シラバスを読んでも内容が良く分からなかった、2: シラバスについて知らなかったので、受講前に読んでいなかった。（1~0はなし）

6) この講義全体の目標はよく理解できましたか。

5: 理解できた、4: 理解できなかった。（3~0はなし）

7) この授業に興味を持ってましたか。

5: 持てた、4: 持てなかった。（3~0はなし）

*4に丸印をつけた人は、興味もてなかった理由は何ですか？記述欄に記入して下さい。

8) 毎回の授業のねらいはその都度明確にされていましたか。

5: されていた、4: されていない。（3~0はなし）

9) 毎回の授業の内容はよく準備されたものと感じられましたか。

5: 準備されていた、4: 準備不足。(3~0はなし)

10) 授業での説明は理解しやすかったですか。

5: 理解しやすかった、4: 理解しにくかった。(3~0はなし)

*4に丸印をつけた人は、どのような点が理解しにくかったか、記述欄に記入して下さい。

11) 授業の内容は難しく(難易度)感じましたか。

5: 適切、4: 難しかった、3: 易しすぎた。(2~0はなし)

*5に丸印をつけた人は、どのような点が難しいと感じたか、記述欄に記入して下さい。

12) 授業内容の量は、適切でしたか。

5: 適切、4: 多すぎる、3: 物足りなかった。(2~0はなし)

「学生自身の学習態度に関する項目」

13) この授業に興味を持ち、自主的に調べたことはありますか。

5: ある、4: ない。(3~0はなし)

14) この授業について、予習しましたか。

5: した、4: 少しした、3: しなかった。(2~0はなし)

*3に丸印をつけた人は、何故予習しなかったのか、その理由を記述欄に記入して下さい。

15) 復習をしましたか。

5: した、4: 少しした、3: しなかった。(2~0はなし)

*3に丸印をつけた人は、何故復習しなかったのか、その理由を記述欄に記入して下さい。

資料2

平成22年度「学生による授業評価」実験・実習に関する調査票（質問用紙）

科目名：_____、学科名：_____、学年：_____

この調査票は、本学部の実験・実習内容・方法を一層充実・改善するための資料となるものです。記入にあたっては、学生諸君の素直な評価をお願いします。なお、この調査はあなたの成績と一切関係はありません。

下記の項目の質問について、別紙の「学生による授業評価」調査票（回答表）に〔 〕の中から適切と思われる番号の丸数字を塗りつぶして下さい。また、この実験・実習に関する感想や評価できる点あるいは改善すべき点、があれば、回答表のコメント欄に記入してください。

〔5：非常に満足 4：やや満足 3：普通 2：やや不満 1：非常に不満〕

A

「実験・実習に関する項目」

1. 実験・実習に関するシラバスは、適切であった。
2. 実験・実習の時間設定が適切であった。
3. 実験・実習に関する資料（実験書あるいはプリント資料）は学生に理解できるように工夫されていました。
4. 実験・実習に関する説明は要点が理解できる説明であった。
5. 機械・器具の使用法の説明が明確であった。
6. 実験・実習前あるいは実習中の教官の説明は適切であった。
7. 実験・実習に教官としての熱意が感じられた。
8. 学生の質問に丁寧に対応していた。
9. 実験・実習器具・機械が適切に配分されていた。
10. 不適切（不真面目な学生も含む）な実験・実習をしている学生にはその都度、教員は注意する等の指導をしていた。
11. レポートの書き方の指導が適切であった。
12. レポートの考察や学習課題等の助言がなされていた。
13. レポートの評価（訂正等）は適切であった。
14. あなたは実験を通じて、実験技術等が向上しました。
15. ティーチングアシスタントは適切な指導補助を行いました。